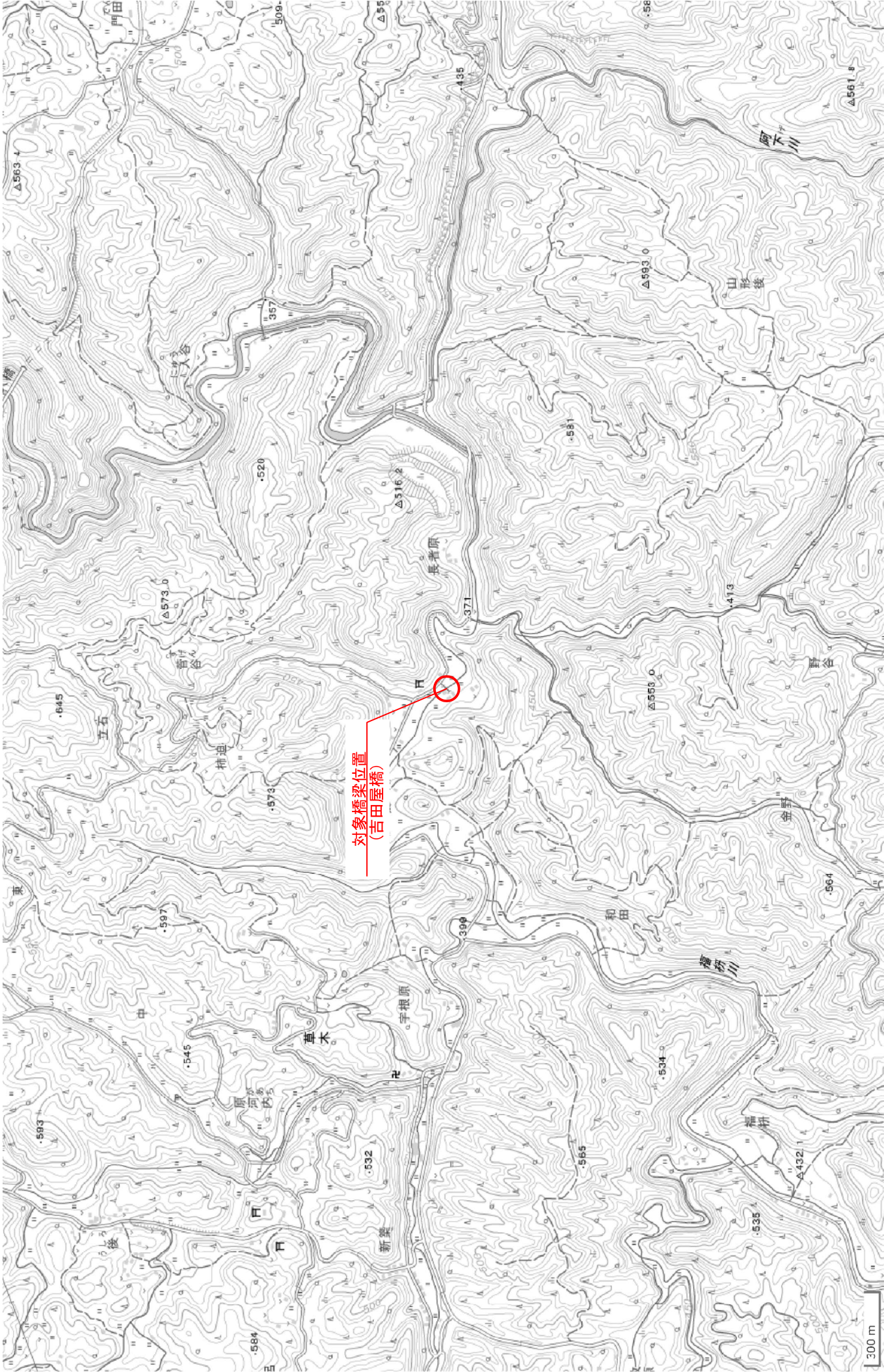


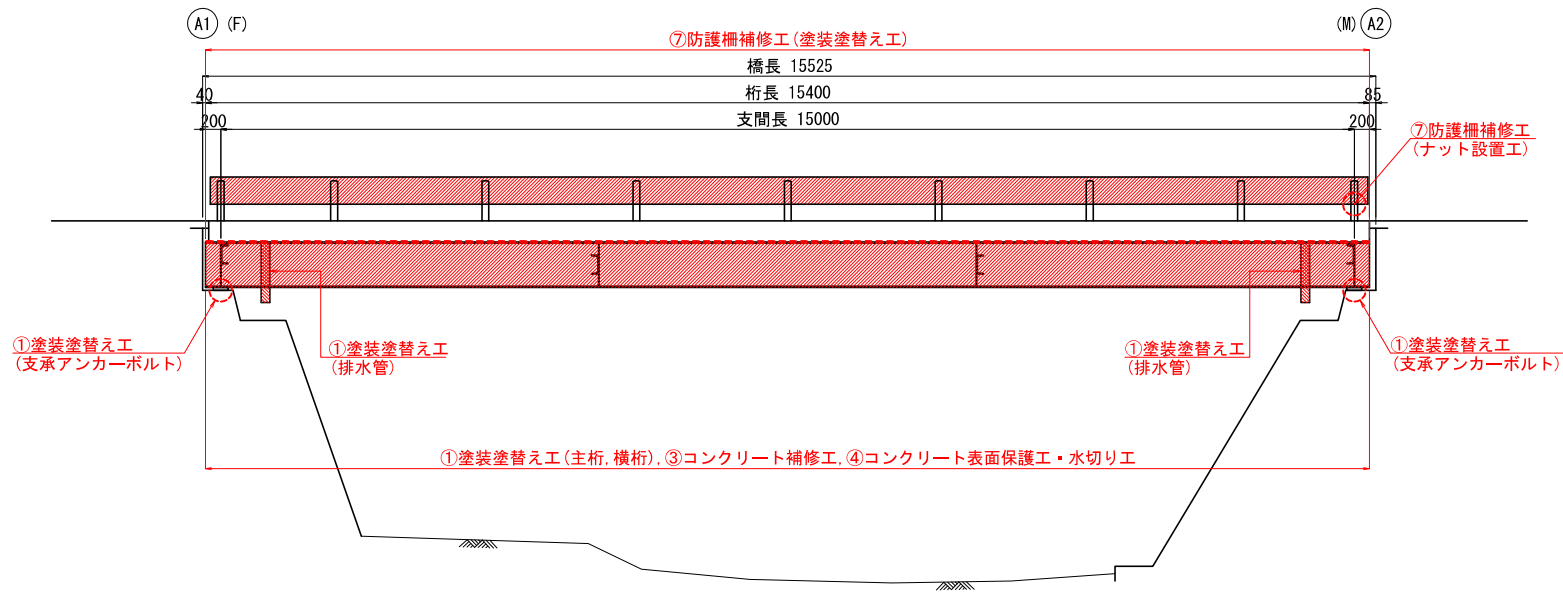
吉田屋橋 位置図 S=1:10,000



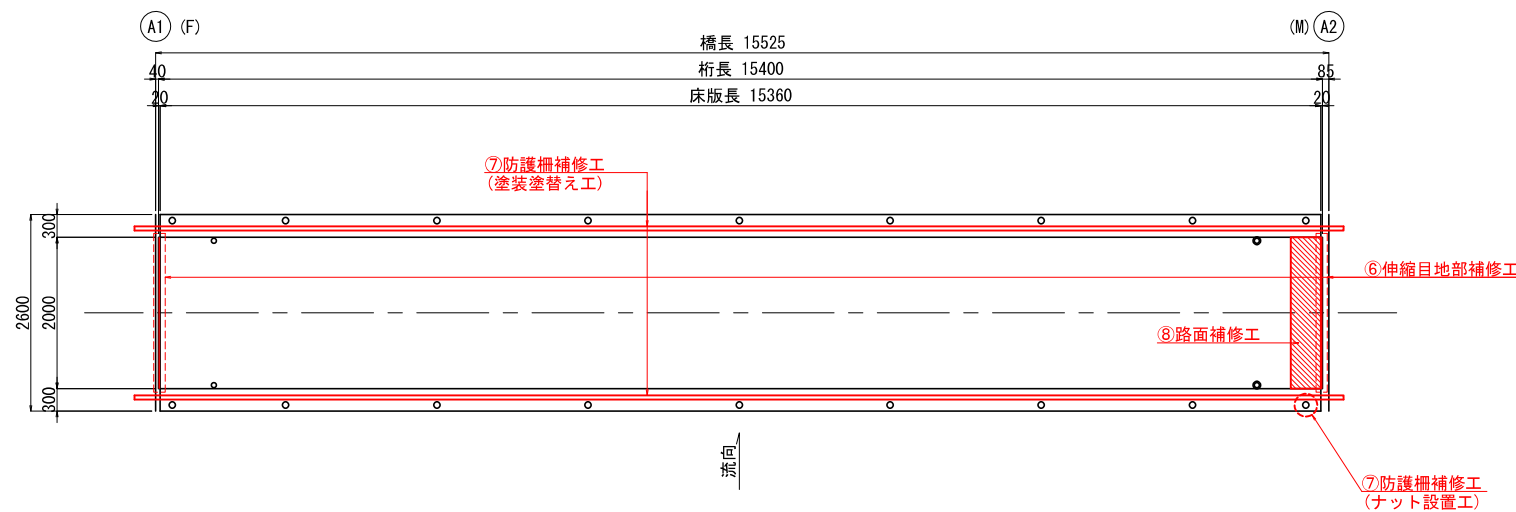
【吉田屋橋】			
工事名	令和6年度橋梁補修設計業務		
図面名	吉田屋橋 位置図		
作成年月日	令和6年12月		
縮尺	S=1:10,000	図面番号	1 / 9
会社名	株式会社 バスコ		
事業者名	神石高原則 建設課		

吉田屋橋 補修工一般図 S=1:50

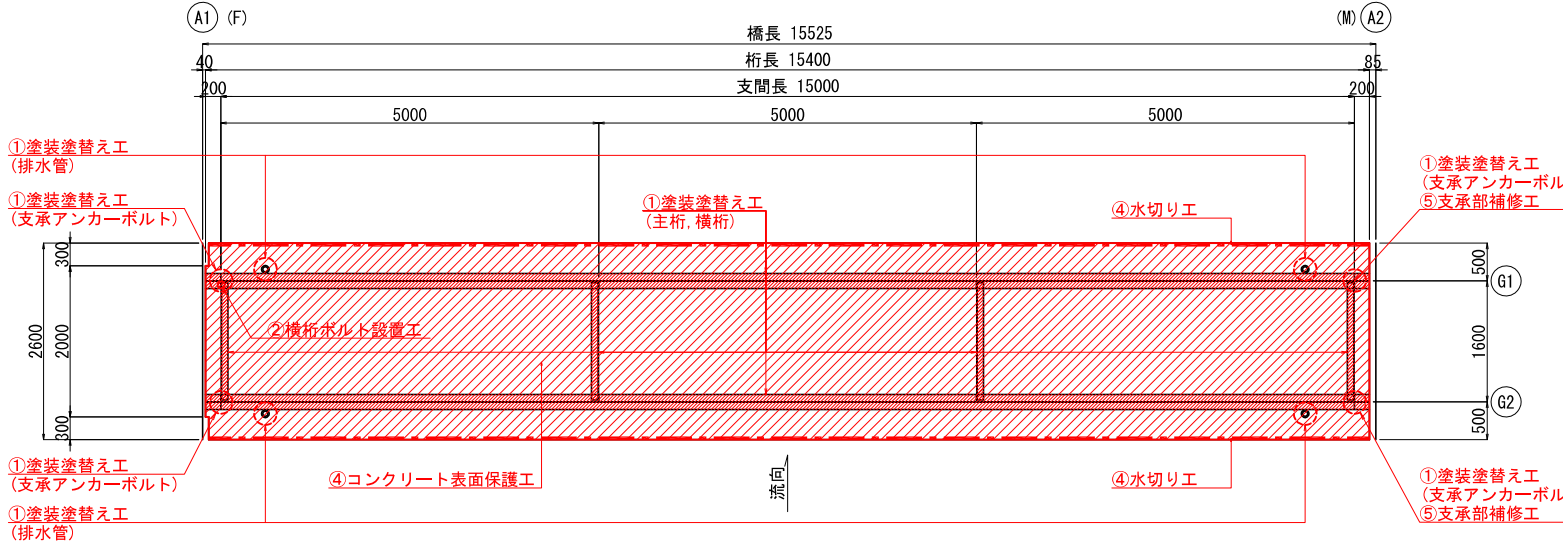
側面図



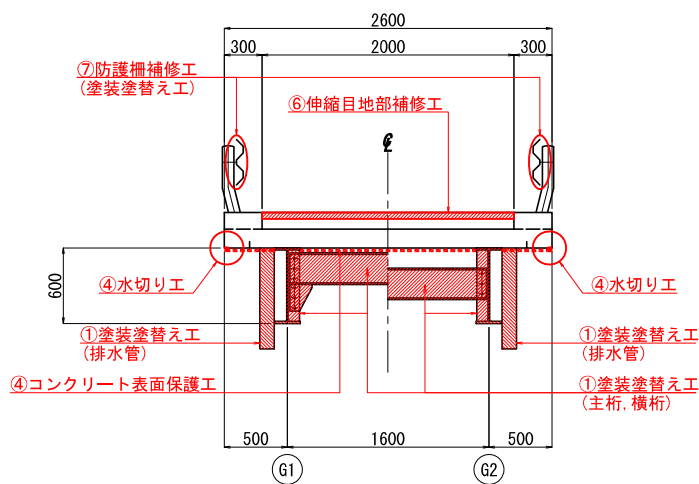
平面図 (橋面)



平面図 (桁下)



上部工断面図 S=1:30



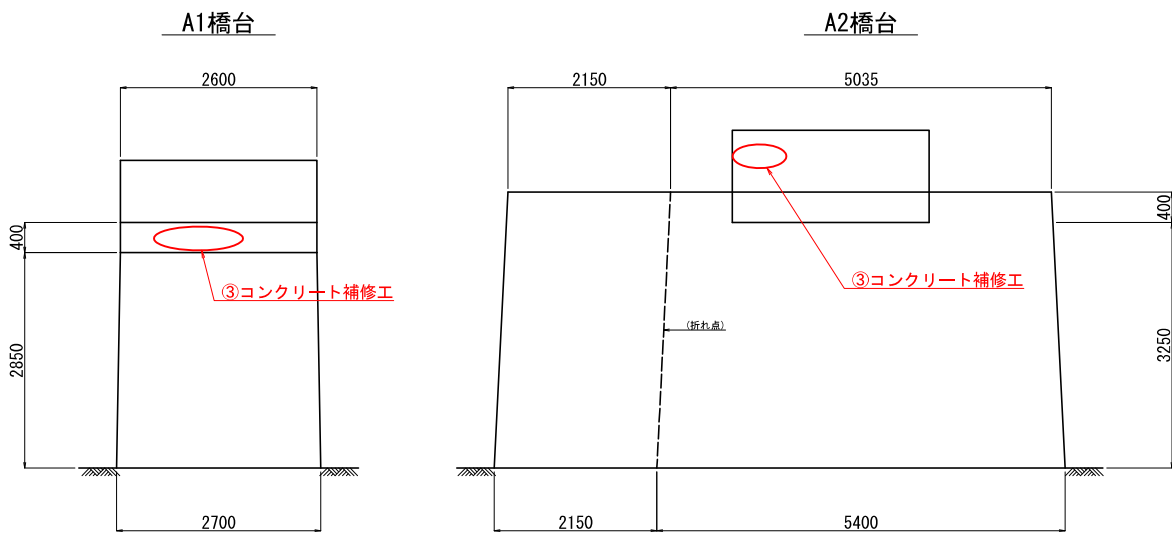
橋梁諸元

項目	内容
橋梁名	吉田屋橋
路線名	町道 吉田屋向線
橋 種	単純合成H形鋼橋
活荷重	不明
竣工年	昭和47年(1972年)
交差物件	福樹川 (河川管理者: 広島県)

上部工主要断面一覧

	断面
主 桁	H-600×200×11×17
横桁	端支点 [-250x90x9x13
	中間 [-250x90x9x13

下部工断面図



対策工一覧【吉田屋橋】

- ①塗装塗替え工
・鋼部材に腐食及び防食機能の劣化が見られるため、錆転換工法による塗装塗替え工 (主桁、横桁、支承アンカーボルト、排水管)
- ②横桁ボルト設置工
・A1側の端支点横桁において、取付ボルトが脱落している箇所にに対しボルト設置工 (N=1)
- ③コンクリート補修工
・0.2mm以上のひびわれに対しひびわれ補修工、剥離・鉄筋露出、うき及び欠損部に対し断面復工 (床版、防護柵支柱下端、下部工)
- ④コンクリート表面保護工・水切り工
・床版に対し、塩化物イオンの供給量低減、Co中性化進行抑制、鉄筋の腐食進行抑制対策として、表面含浸工 (鉄筋腐食抑制型)
- ・地覆からの伝い水遮断対策として、水切り工
- ⑤支承部補修工
・ゴム材に劣化が見られる箇所にに対し、補修材塗布によるゴム材劣化抑制工 (N=2)
- ⑥伸縮目地部補修工
・全支点において桁下への漏水が見られるため、伸縮目地部への止水材設置工
- ⑦防護柵補修工
・ガードレールのビームに腐食及び防食機能の劣化が見られるため、塗装塗替え工
・ガードレールのビーム取付ボルトにおいて、ナットが脱落している箇所にに対しナット設置工 (N=1)
- ⑧路面補修工
・A2橋台側の伸縮部付近において、上部工と橋台背面とで段差が生じていることから常温合材による段差擦り付け工

注記

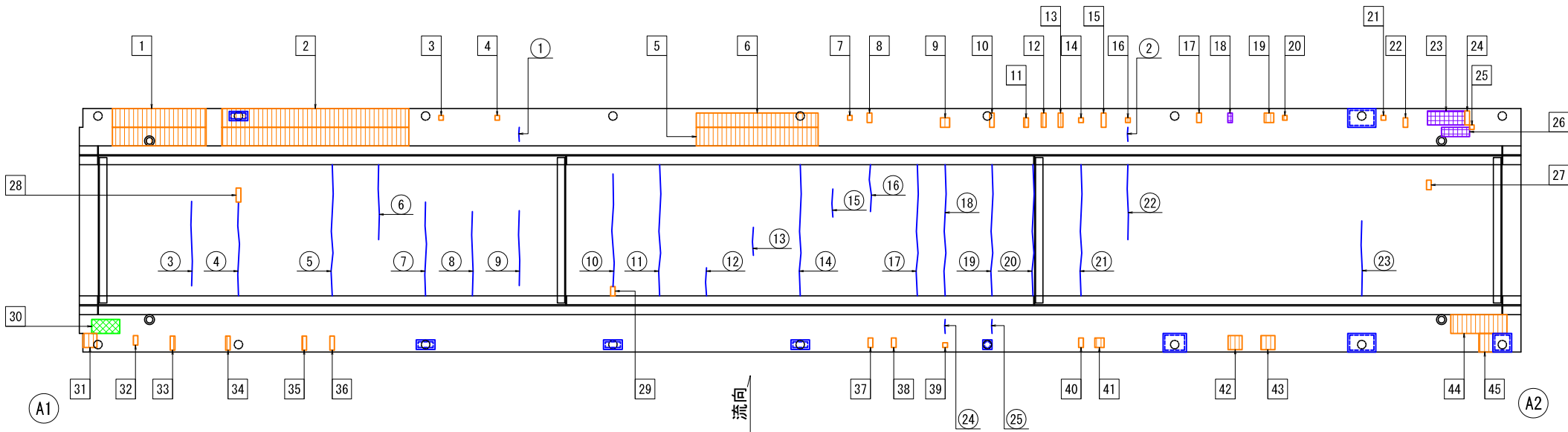
- 施工にあたっては現地測量を行い、既設構造物の寸法や斜角を再確認すること。
- 補修部材は、実測確認後に製作すること。
- その他、現場条件により不具合がある場合は、協議の上、変更を行うこと。
- 施工にあたっては再度現地調査を行い、損傷箇所を確認の上実施すること。
- 再調査の結果、新たな損傷箇所が確認された場合は協議の上、対策を行うこと。

【吉田屋橋】

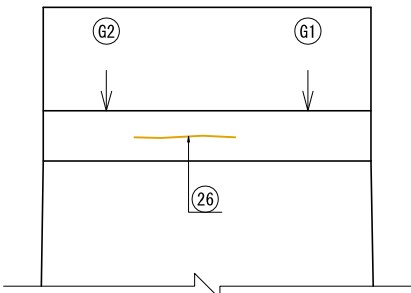
工事名	令和6年度橋梁補修設計業務
図面名	吉田屋橋 補修工一般図
作成年月日	令和6年12月
縮尺	S=1:50 図面番号 2 / 9
会社名	株式会社 パスコ
事業者名	神石高原町 建設課

コンクリート補修工図(その1) S=1:30

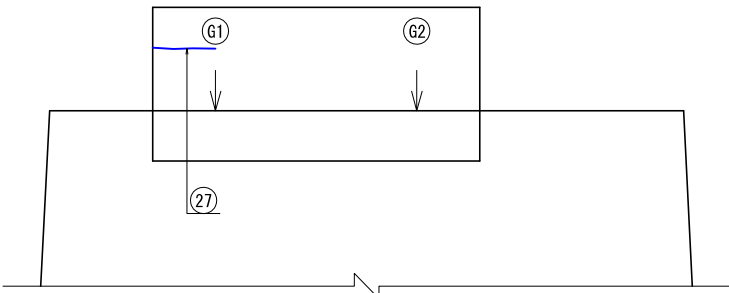
平面図
(床版下面)



A1橋台



A2橋台



ひびわれ補修工数量:床版下面・下部工

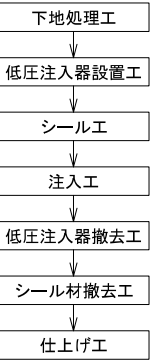
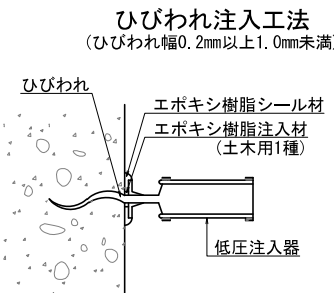
部位	番号	ひびわれ補修工		箇所数	備考
		幅(mm)	長さ(m)		
床版	①	0.20	0.15	1	ひびわれ注入工
	②	0.20	0.15	1	ひびわれ注入工
	③	0.20	0.90	1	ひびわれ注入工
	④	0.20	1.00	1	ひびわれ注入工
	⑤	0.20	1.40	1	ひびわれ注入工
	⑥	0.20	0.80	1	ひびわれ注入工
	⑦	0.20	1.00	1	ひびわれ注入工
	⑧	0.20	0.90	1	ひびわれ注入工
	⑨	0.20	0.80	1	ひびわれ注入工
	⑩	0.20	1.20	1	ひびわれ注入工
	⑪	0.20	1.40	1	ひびわれ注入工
	⑫	0.20	0.30	1	ひびわれ注入工
	⑬	0.20	0.30	1	ひびわれ注入工
	⑭	0.20	1.40	1	ひびわれ注入工
	⑮	0.20	0.30	1	ひびわれ注入工
	⑯	0.20	0.50	1	ひびわれ注入工
	⑰	0.20	1.40	1	ひびわれ注入工
	⑱	0.20	1.40	1	ひびわれ注入工
	⑲	0.20	1.40	1	ひびわれ注入工
	⑳	0.20	1.40	1	ひびわれ注入工
	㉑	0.20	1.40	1	ひびわれ注入工
	㉒	0.20	0.80	1	ひびわれ注入工
	㉓	0.20	0.80	1	ひびわれ注入工
	㉔	0.20	0.15	1	ひびわれ注入工
	㉕	0.20	0.15	1	ひびわれ注入工
A1橋台	㉖	0.70	0.80	1	ひびわれ注入工
A2橋台	㉗	0.20	0.50	1	ひびわれ注入工

断面修復工数量:床版下面

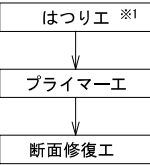
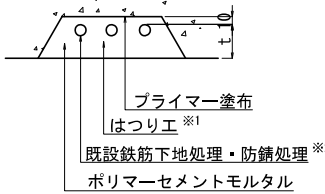
部位	番号	断面修復工		箇所数	備考	部位	番号	断面修復工		箇所数	備考
		幅(m)	長さ(m)					幅(m)	長さ(m)		
床版	1	1.00	0.20	2	鉄筋露出	床版	24	0.50	0.15	1	鉄筋露出
	2	2.00	0.20	2	鉄筋露出		25	0.50	0.50	1	鉄筋露出
	3	0.05	0.05	1	鉄筋露出		26	0.30	0.10	1	うき
	4	0.05	0.05	1	鉄筋露出		27	0.05	0.10	1	鉄筋露出
	5	1.30	0.20	1	鉄筋露出		28	0.05	0.15	1	鉄筋露出
	6	1.30	0.15	1	鉄筋露出		29	0.05	0.10	1	鉄筋露出
	7	0.05	0.05	1	鉄筋露出		30	0.30	0.15	1	欠損
	8	0.05	0.10	1	鉄筋露出		31	0.15	0.15	1	鉄筋露出
	9	0.10	0.10	1	鉄筋露出		32	0.05	0.10	1	鉄筋露出
	10	0.05	0.15	1	鉄筋露出		33	0.05	0.15	1	鉄筋露出
	11	0.05	0.10	1	鉄筋露出		34	0.05	0.15	1	鉄筋露出
	12	0.05	0.15	1	鉄筋露出		35	0.05	0.15	1	鉄筋露出
	13	0.05	0.15	1	鉄筋露出		36	0.05	0.15	1	鉄筋露出
	14	0.05	0.05	1	鉄筋露出		37	0.05	0.10	1	鉄筋露出
	15	0.05	0.15	1	鉄筋露出		38	0.05	0.10	1	鉄筋露出
	16	0.05	0.05	1	鉄筋露出		39	0.05	0.05	1	鉄筋露出
	17	0.05	0.10	1	鉄筋露出		40	0.05	0.10	1	鉄筋露出
	18	0.05	0.10	1	うき		41	0.10	0.10	1	鉄筋露出
	19	0.10	0.10	1	鉄筋露出		42	0.15	0.15	1	鉄筋露出
	20	0.05	0.05	1	鉄筋露出		43	0.15	0.15	1	鉄筋露出
	21	0.05	0.05	1	鉄筋露出		44	0.60	0.20	1	鉄筋露出
	22	0.05	0.10	1	鉄筋露出		45	0.15	0.20	1	鉄筋露出
	23	0.40	0.15	1	うき						

コンクリート補修要領

〈ひびわれ補修工〉



〈断面修復工〉



※1: はつり箇所の端部は、10mm程度のカッター目地を入れ、フェザーエッジを回避すること。
※2: はつり時鉄筋が露出した場合には防錆処理を行うこと。
※3: 断面復旧時、既設鉄筋からの純かぶり厚は20mmを確保すること。

凡例(単位:mm)

損傷の種類	表示
遊離石灰を伴うひびわれ	
鉄筋露出	
欠損	
うき	
剥離	

凡例(ひびわれ)

幅	表示
0.2≦W<0.3	
0.3≦W<0.4	
0.4≦W<0.5	
0.5≦W<1.0	
1.0≦W	

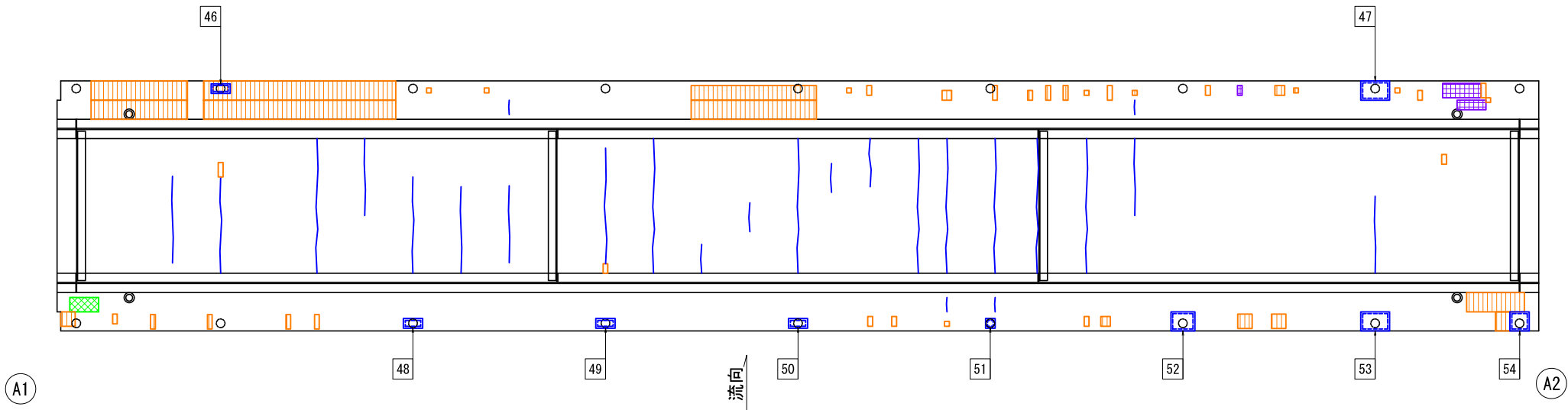
- 注記
1. 施工にあたっては現地測量を行い、既設構造物の寸法や斜角を再確認すること。
 2. 補修部材は、実測確認後に製作すること。
 3. その他、現場条件により不具合がある場合は、協議の上、変更を行うこと。
 4. 施工にあたっては再度現地調査を行い、損傷箇所を確認の上実施すること。
 5. 再調査の結果、新たな損傷箇所が確認された場合は協議の上、対策を行うこと。

【吉田屋橋】

工事名	令和6年度橋梁補修設計業務
図面名	コンクリート補修工図(その1)
作成年月日	令和6年12月
縮尺	S=1:30 図面番号 4 / 9
会社名	株式会社 パスコ
事業者名	神石高原町 建設課

コンクリート補修工図(その2) S=1:30

平面図
(防護柵支柱下端)

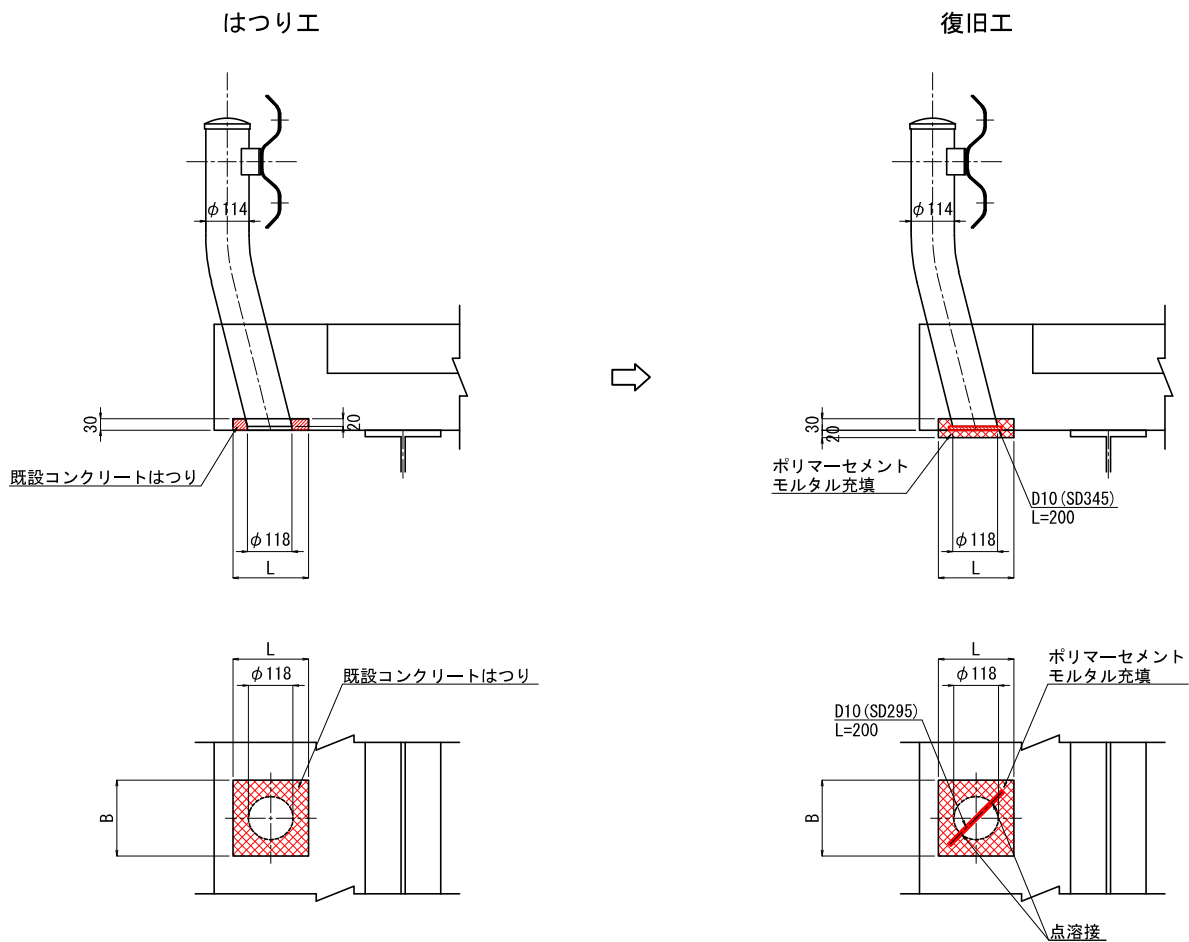


防護柵支柱下端部断面修復要領 S=1:10

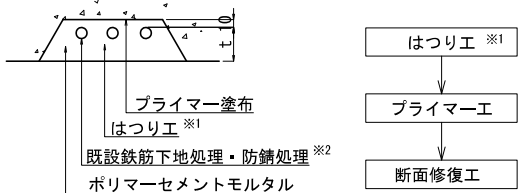
コンクリート補修要領

断面修復工数量:防護柵支柱下端

部位	番号	断面修復工		箇所数	備考
		B (m)	L (m)		
床版 (防護柵下端)	46	0.20	0.10	1	剥離
	47	0.30	0.20	1	剥離
	48	0.20	0.10	1	剥離
	49	0.20	0.10	1	剥離
	50	0.20	0.10	1	剥離
	51	0.10	0.10	1	剥離
	52	0.25	0.20	1	剥離
	53	0.30	0.20	1	剥離
	54	0.20	0.20	1	剥離



〈断面修復工〉



※1: はつり箇所の端部は、10mm程度のカッター目地を入れ、フェザーエッジを回避すること。
※2: はつり時鉄筋が露出した場合には防錆処理を行うこと。
※3: 断面復旧時、既設鉄筋からの純かぶりは20mmを確保すること。

凡例(単位=mm)

損傷の種類	表示
遊離石灰を伴うひびわれ	
鉄筋露出	
欠損	
うき	
剥離	

凡例(ひびわれ)

幅	表示
0.2≦W<0.3	
0.3≦W<0.4	
0.4≦W<0.5	
0.5≦W<1.0	
1.0≦W	

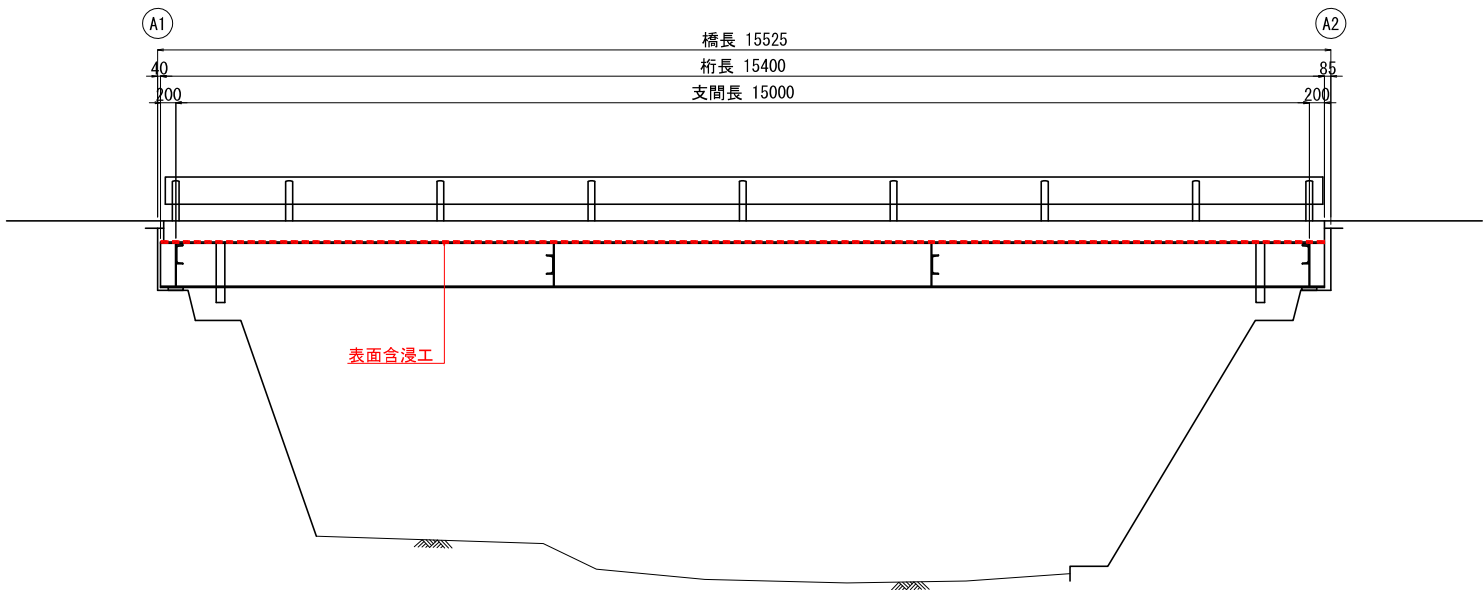
注記
1. 施工にあたっては現地測量を行い、既設構造物の寸法や斜角を再確認すること。
2. 補修部材は、実測確認後に製作すること。
3. その他、現場条件により不具合がある場合は、協議の上、変更を行うこと。
4. 施工にあたっては再度現地調査を行い、損傷箇所を確認の上実施すること。
5. 再調査の結果、新たな損傷箇所が確認された場合は協議の上、対策を行うこと。

【吉田屋橋】

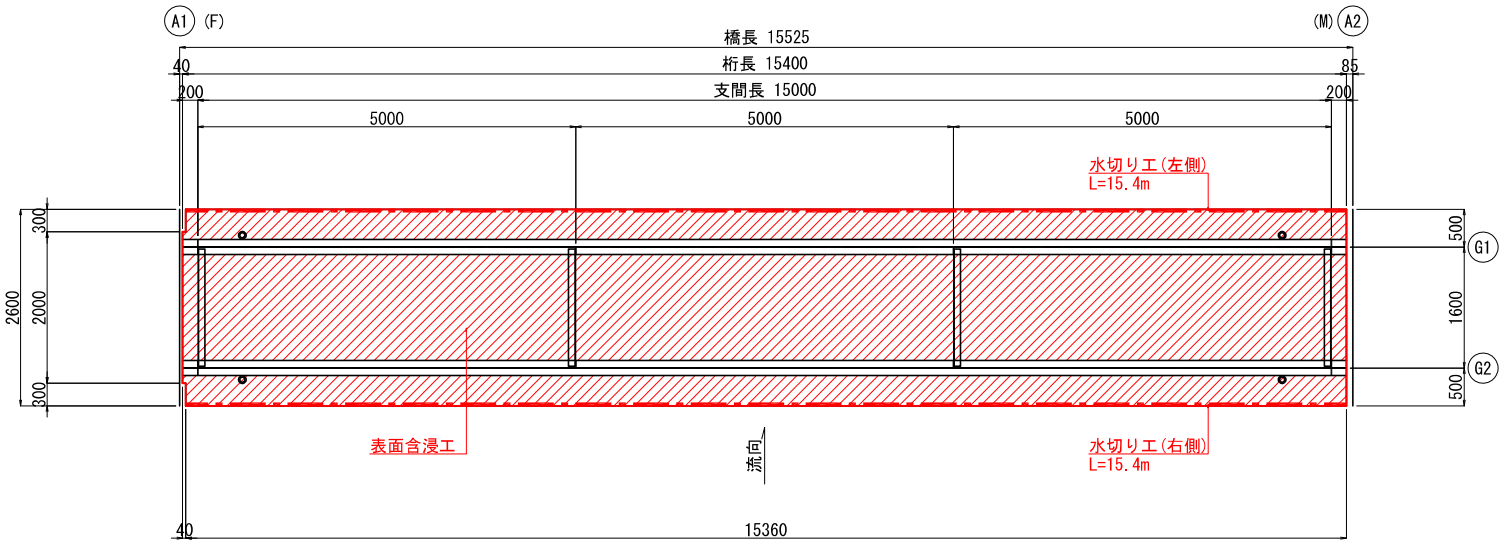
工事名	令和6年度橋梁補修設計業務		
図面名	コンクリート補修工図(その2)		
作成年月日	令和6年12月		
縮尺	S=1:30	図面番号	5 / 9
会社名	株式会社 パスコ		
事業者名	神石高原町 建設課		

コンクリート表面保護工・水切り工図
 S=1:50

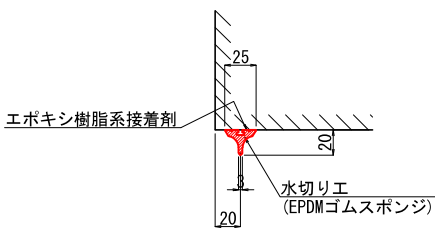
側面図



平面図



水切り工詳細図

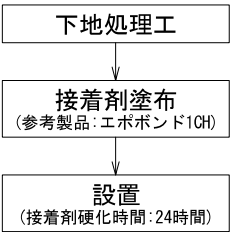


水切り工

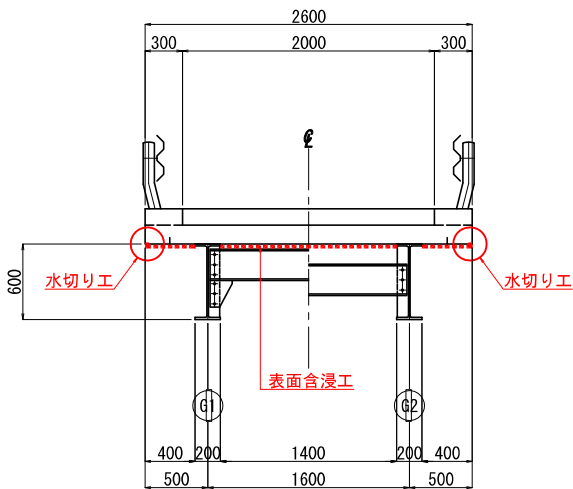
名称	材質	寸法	左側	右側	合計	参考
水切り工	EPDMゴムスポンジ	W25×H20	15.4m	15.4m	30.8m	80g/m

※NETIS登録番号:KK-180012-VE相当品(参考製品名:ウォーターカッター)

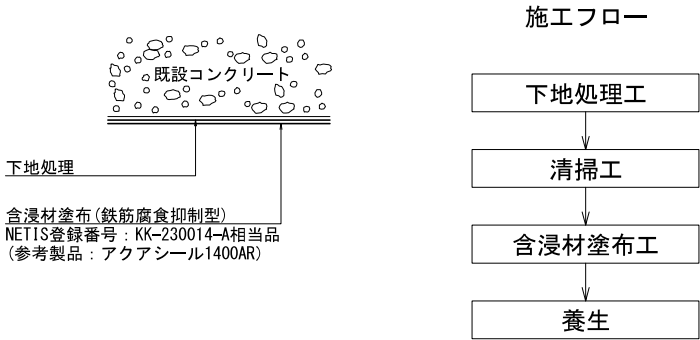
施工フロー



上部工断面図 S=1:30



コンクリート表面含浸工



表面含浸材の要求性能

試験項目	シラン系表面含浸材 評価基準
外観	変化なし、わずかに変化、 著しい変化のいずれか
含浸性	—
透水抑制率	80%以上(グレードA)
吸水抑制率	80%以上(グレードA)
中性化抑制率	30%以上(グレードA)
塩化物イオン浸透抑制率	80%以上(グレードA)
透湿比	80%以上(グレードA)

試験方法: 表面含浸材の試験方法(案) JSGE-K571-2005
基材: 水セメント比 W/C=50%のモルタル
出典: 土木学会、表面保護工法設計施工指針(案)(2005.4)より

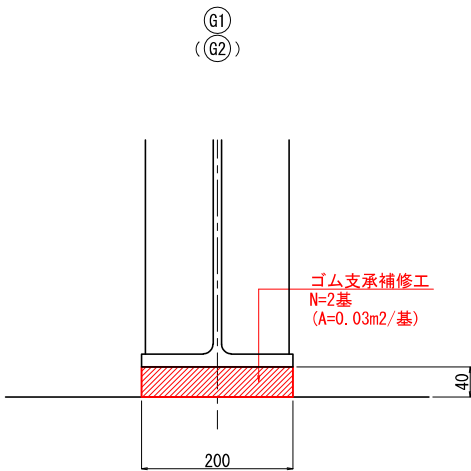
- 注記
1. 施工にあたっては現地測量を行い、既設構造物の寸法や斜角を再確認すること。
 2. 補修部材は、実測確認後に製作すること。
 3. その他、現場条件により不具合がある場合は、協議の上、変更を行うこと。
 4. 施工にあたっては再度現地調査を行い、損傷箇所を確認の上実施すること。
 5. 再調査の結果、新たな損傷箇所が確認された場合は協議の上、対策を行うこと。

【吉田屋橋】

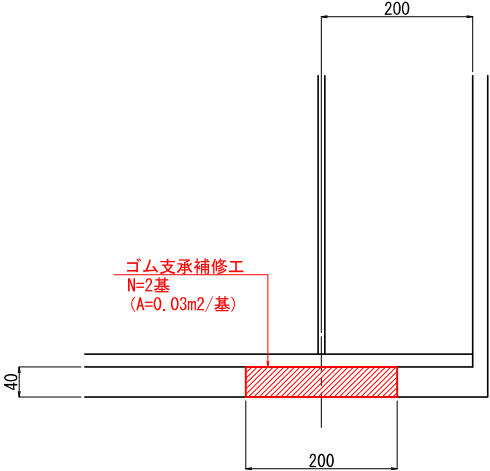
工事名	令和6年度橋梁補修設計業務
図面名	コンクリート表面保護工・水切り工図
作成年月日	令和6年12月
縮尺	S=1:50 図面番号 6 / 9
会社名	株式会社 パスコ
事業者名	神石高原町 建設課

支承部補修工図

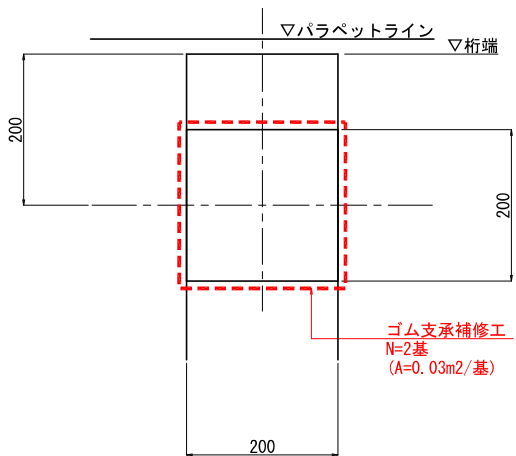
断面図 S=1:5



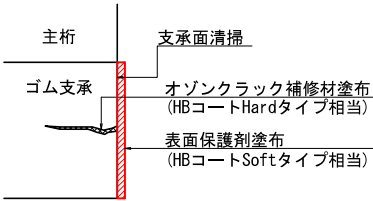
側面図 S=1:5



平面図

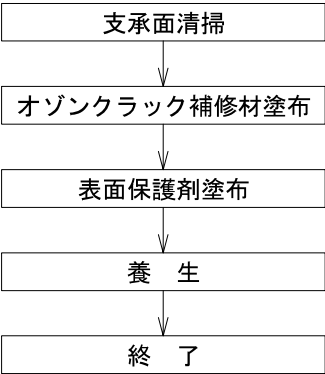


補修要領図

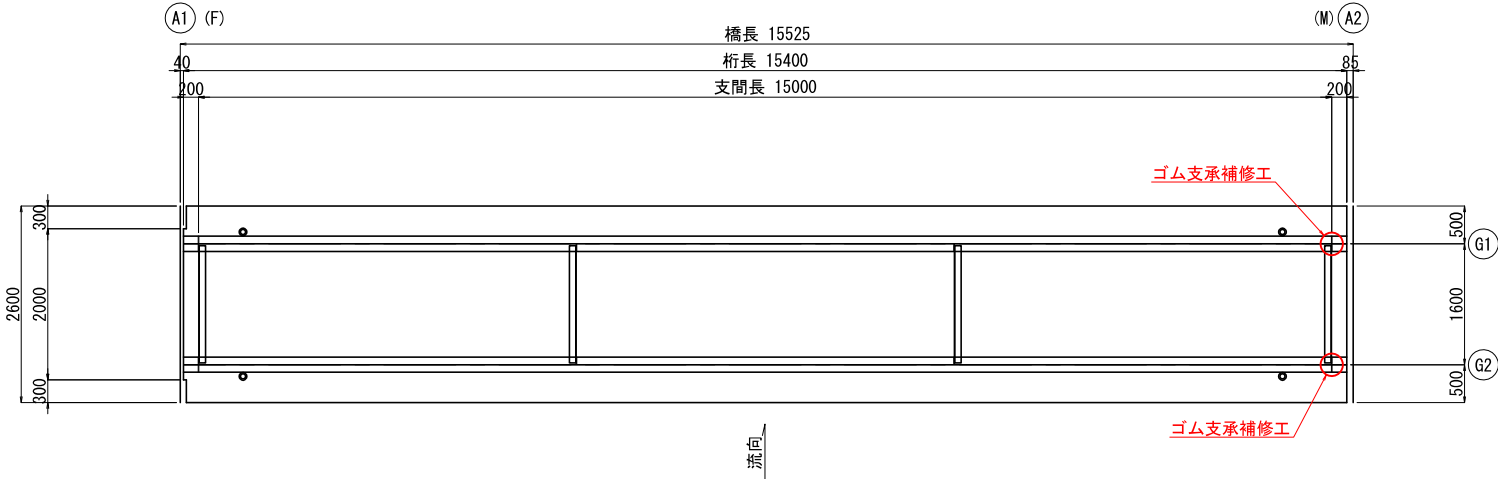


被覆ゴム表面保護用補修材性能表	
主成分	クロロブレンゴム系
物性値	引張強さ：0.5～0.7MPa 伸び：1000%以上 硬さ：A5～8 (DuroA)
耐オゾン性	濃度50±5pphm、40℃、伸張率50% 暴露時間240H、亀裂の数0

補修フロー



位置図 S=1:50

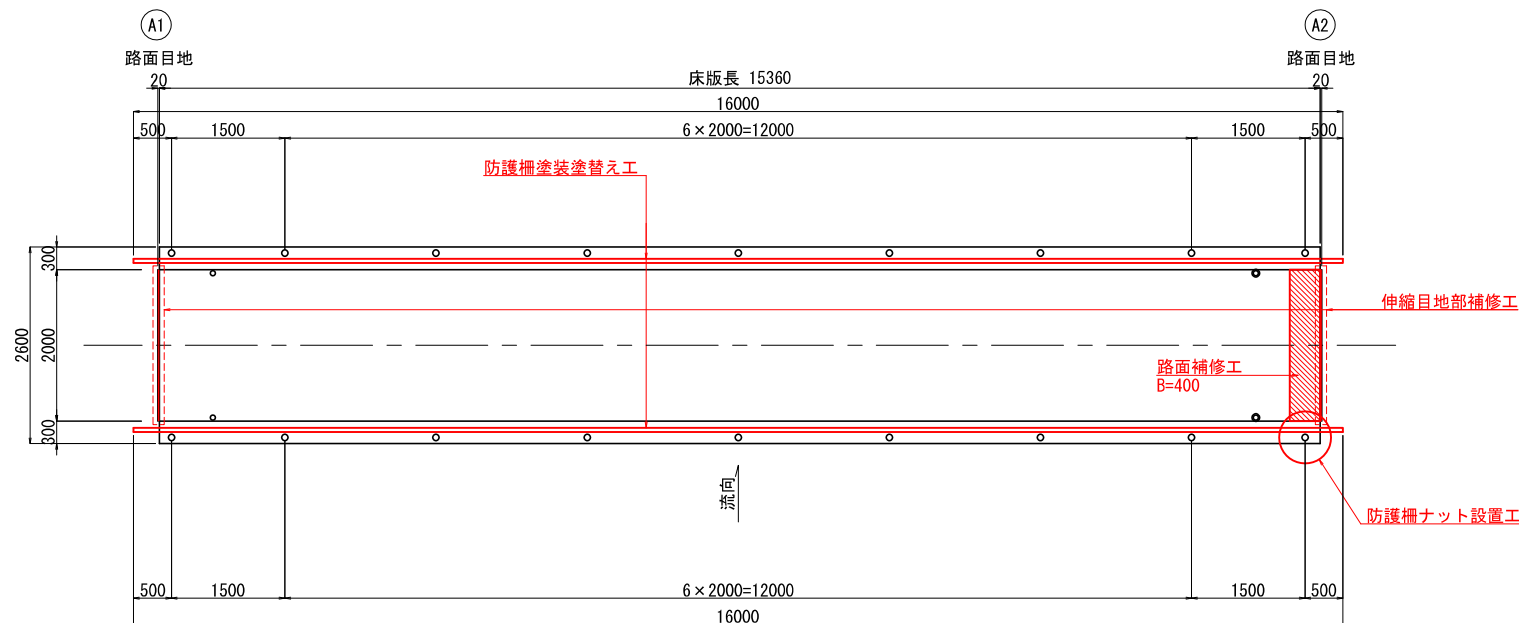


- 注記
1. 施工にあたっては現地測量を行い、既設構造物の寸法や斜角を再確認すること。
 2. 補修部材は、実測確認後に製作すること。
 3. その他、現場条件により不具合がある場合は、協議の上、変更を行うこと。
 4. 施工にあたっては再度現地調査を行い、損傷箇所を確認の上実施すること。
 5. 再調査の結果、新たな損傷箇所が確認された場合は協議の上、対策を行うこと。

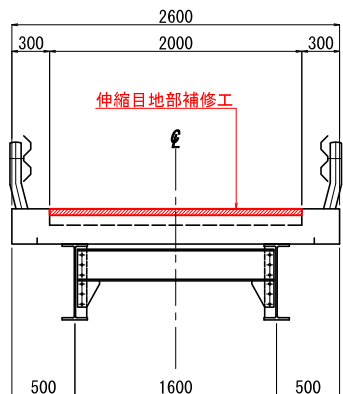
【吉田屋橋】			
工事名	令和6年度橋梁補修設計業務		
図面名	支承部補修工図		
作成年月日	令和6年12月		
縮尺	図示	図面番号	7 / 9
会社名	株式会社 パスコ		
事業者名	神石高原町 建設課		

伸縮目地部補修工・防護柵補修工・路面補修工図

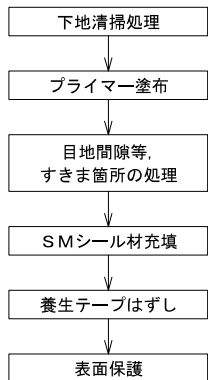
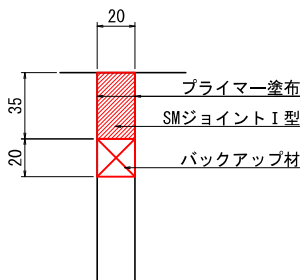
平面図 S=1:50



断面図 S=1:30



伸縮目地部補修工 S=1:2



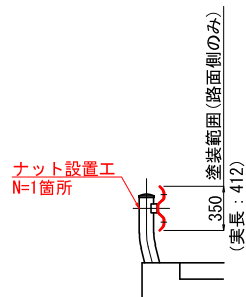
伸縮目地部補修工材料表

(施工幅20mm, 施工厚35mm)

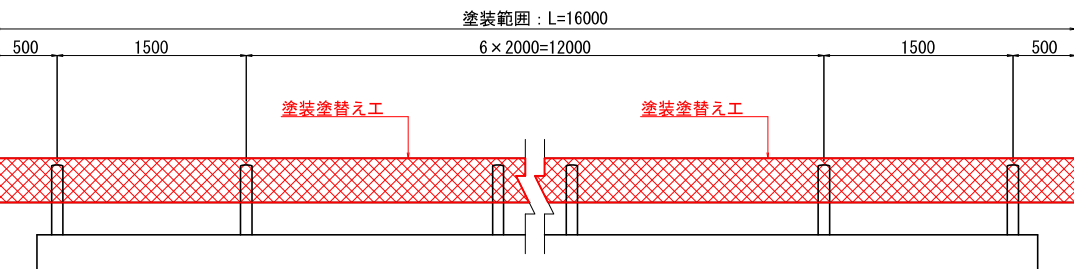
名 称	材 質	A1 (B=20)	A2 (B=20)	合計	備 考
伸縮目地材	SMシーリング材 (ポリブタジエン樹脂)	2.00 m	2.00 m	4.00 m	SMジョイントI型相当 ($\gamma=1.110$)
		1.6 ㍓	1.6 ㍓	3.2 ㍓	
プライマー	専用プライマー	21.0 m ²	21.0 m ²	42.0 m ²	150 m ² /m ²
バックアップ材	バックアップ材	2.00 m	2.00 m	4.00 m	

防護柵補修工 S=1:30

(塗装塗替え工・ナット設置工)



<ナット数量>
1-NUT M20 (1種) (SS400)
1-WASHER M20 (SS400)

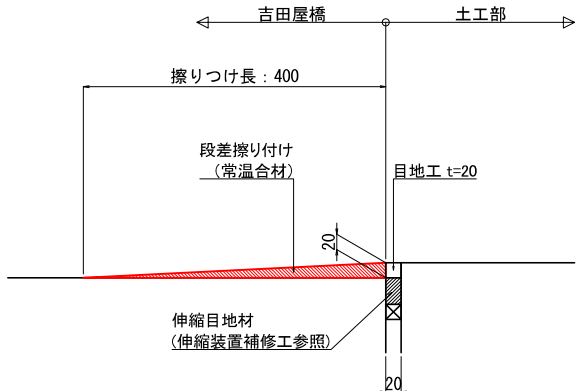


防護柵塗装仕様・数量

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)	塗装間隔	塗装方法	膜厚 (μ m)	数 量 (m ²)	備 考
素地調整	3種ケレンA	—	—	—	—	13.2	A=0.412×16.00×2 =13.2m ²
中塗	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	120	4h以内	ハケ・ローラー	30	13.2	
上塗	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	110	2日～10日	ハケ・ローラー	25	13.2	

(色彩: 白色)

路面補修工 S=1:5



路面補修工材料表

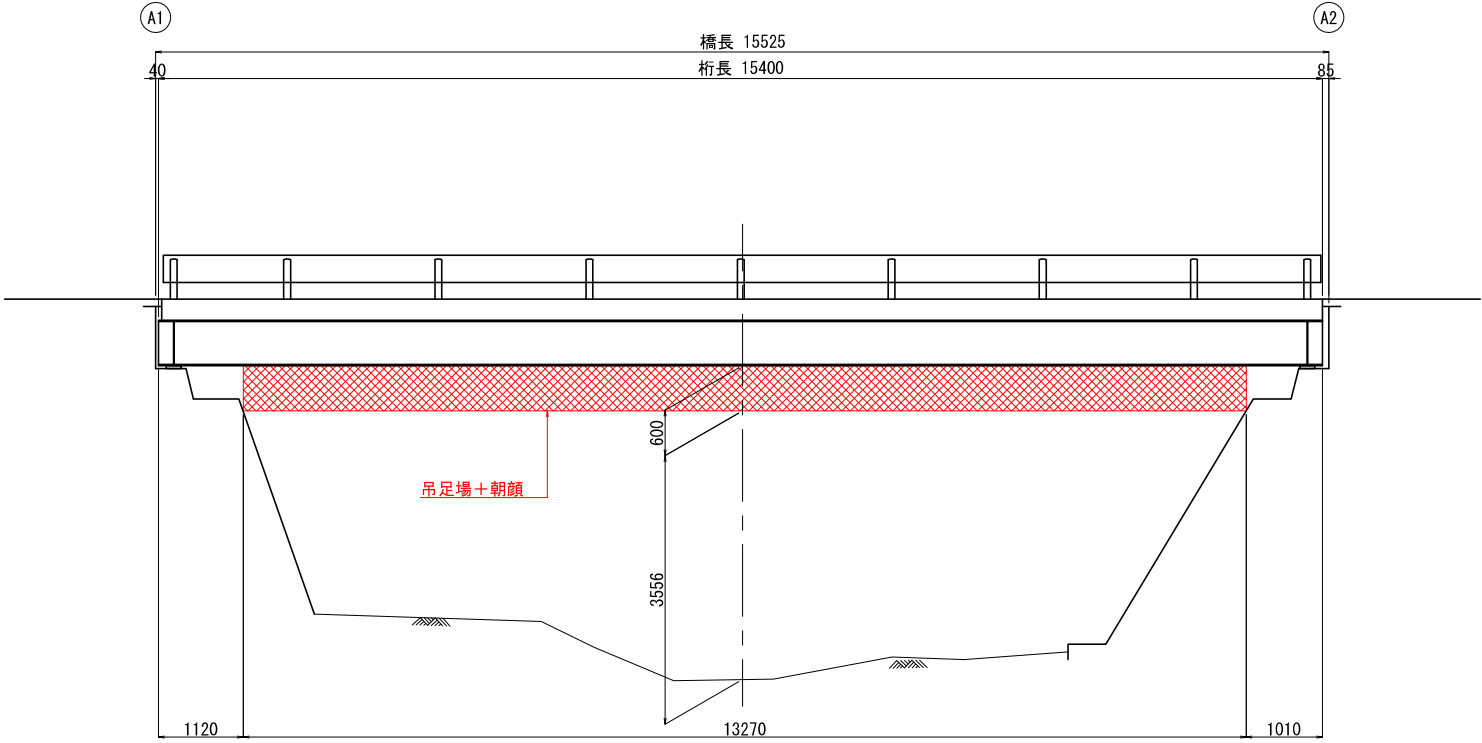
名 称	単位	数 量	備 考
目 地 工	m ²	0.040	瀝青質目地材, t=20
段差擦り付け工	t	0.02	常温合材, V=0.008m ³

- 注記
- 施工にあたっては現地測量を行い、既設構造物の寸法や斜角を再確認すること。
 - 補修部材は、実測確認後に製作すること。
 - その他、現場条件により不具合がある場合は、協議の上、変更を行うこと。
 - 施工にあたっては再度現地調査を行い、損傷箇所を確認の上実施すること。
 - 再調査の結果、新たな損傷箇所が確認された場合は協議の上、対策を行うこと。

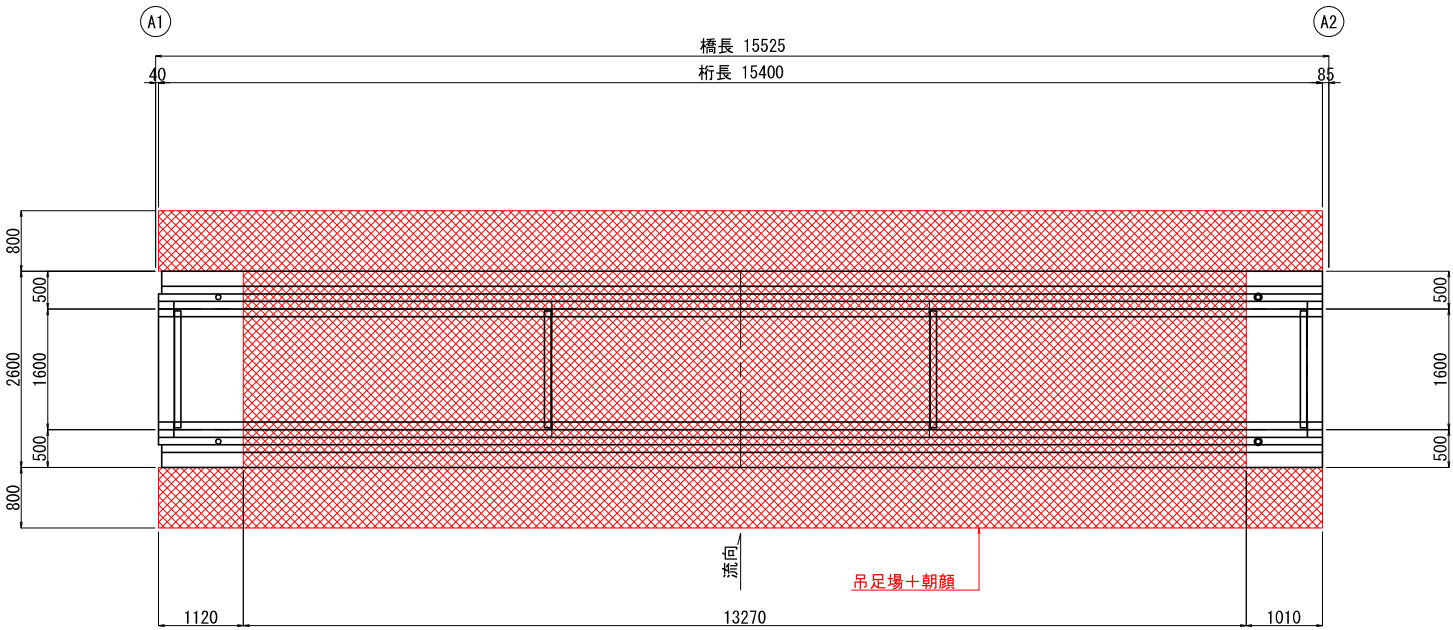
【吉田屋橋】			
工事名	令和6年度橋梁補修設計業務		
図面名	伸縮目地部補修工・防護柵補修工・路面補修工図		
作成年月日	令和6年12月		
縮尺	図示	図面番号	8 / 9
会社名	株式会社 パスコ		
事業者名	神石高原町 建設課		

(参考) 施工要領図 S=1:50

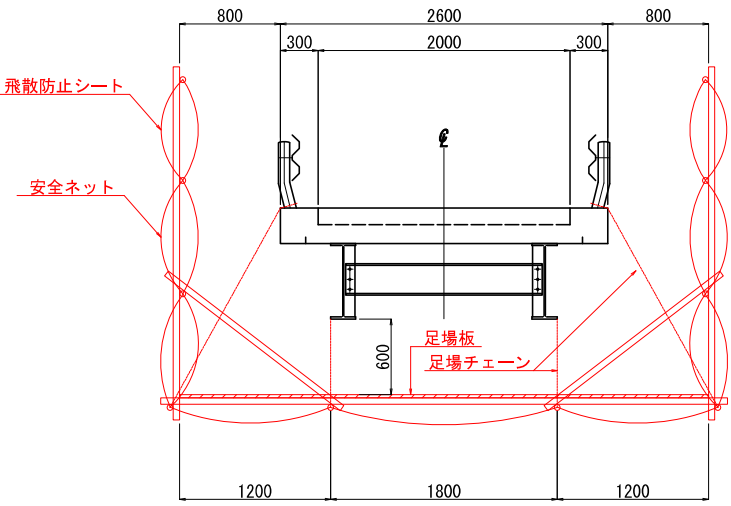
側面図



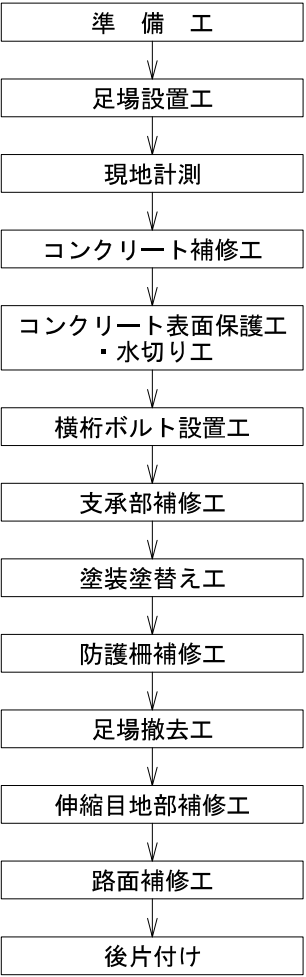
平面図



断面図 S=1:30



施工フロー



- 注記
1. 施工にあたっては現地測量を行い、既設構造物の寸法や斜角を再確認すること。
 2. 補修部材は、実測確認後に製作すること。
 3. その他、現場条件により不具合がある場合は、協議の上、変更を行うこと。
 4. 施工にあたっては再度現地調査を行い、損傷箇所を確認の上実施すること。
 5. 再調査の結果、新たな損傷箇所が確認された場合は協議の上、対策を行うこと。

【吉田屋橋】			
工事名	令和6年度橋梁補修設計業務		
図面名	(参考) 施工要領図		
作成年月日	令和6年12月		
縮尺	S=1:50	図面番号	9 / 9
会社名	株式会社 パスコ		
事業者名	神石高原町 建設課		